

調査先	かがやけ議会!!対話による地方議会活性化フォーラム in 小郡 基調講演															
日時	令和5年9月30日(土)11時10分～12時00分															
場所	九州歴史資料館															
テーマ	混沌とした時代 今後の議会のあり方															
対応者	江藤 俊昭氏 (大正大学教授)															
概要	<p>かがやけ議会!!対話による地方議会活性化フォーラム in 小郡において、大正大学教授、江藤俊昭氏による基調講演を聴いた。</p> <p>【議会をめぐる状況：劣化と活性化】</p> <p>〈なり手不足問題：民主主義の機能不全：無投票当選者率の増加・投票率の低下〉 議会・議員の正当性に疑問符が付けられる。住民自治の空洞化も促す。</p> <p>①政策競争の欠如。地方分権改革、地方財政危機にともない地方行政とともに地方政治が重要となっている。地方政治には、政策競争が不可欠である。無投票には、その重要機会を奪う。</p> <p>②有権者意識の危機。有権者にとって政策型選挙ができず、また議員の4年間の活動の評価ができない。住民の主権者意識が侵食される。</p> <p>③議会の危機。無投票当選は、性別（男性優位）、年齢（高年齢化）等の偏りを促す。議会の存在意義は、多様性を踏まえた公開と討議にある。存在意義であるその多様性を侵害する。</p> <p>〈政治の台頭・活性化〉</p> <p>①分権改革、地方財政危機→地方政治の台頭</p> <p>②善政競争：ネットワーク（マニフェスト大賞、全国町村議会議長会特別表彰） →政治の展開</p> <p>〈解消の正攻法〉</p> <p>住民の福祉の向上（地域力アップ）→議会・議員の魅力の周知 →報酬増額等の条件整備 〔兼業禁止の緩和・議員の位置付け明確化・厚生年金加入の検討〕 <u>議会基本条例とDXを活用する</u></p> <p>【議会改革の基礎・展開】</p> <p>〈形式とともに内容を：住民福祉の向上に連動させる〉</p> <p>表 議会改革と住民との関係</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>議会改革の段階</th> <th>改革方向</th> <th>手法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前史（議会活性化）</td> <td>一問一答方式、対面式議場、委員会の公開等</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">本史</td> <td>第1ステージ</td> <td>住民と歩む議会等の新たな議会運営</td> </tr> <tr> <td>第2ステージ</td> <td>住民の福祉向上につなげる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>議会基本条例 議会からの政策サイクル</td> </tr> </tbody> </table>		議会改革の段階	改革方向	手法	前史（議会活性化）	一問一答方式、対面式議場、委員会の公開等		本史	第1ステージ	住民と歩む議会等の新たな議会運営	第2ステージ	住民の福祉向上につなげる			議会基本条例 議会からの政策サイクル
議会改革の段階	改革方向	手法														
前史（議会活性化）	一問一答方式、対面式議場、委員会の公開等															
本史	第1ステージ	住民と歩む議会等の新たな議会運営														
	第2ステージ	住民の福祉向上につなげる														
		議会基本条例 議会からの政策サイクル														

〈原則編：「住民自治の根幹」としての議会の作動：議会改革の本史への突入：第1ステージ〉

議会改革の本史：議会基本条例に刻印

- ①新たな議会（閉鎖的ではなく住民と歩む議会、質問の場だけではなく議員間討議を重視する議会、追認機関ではなく首長と政策競争する議会）
- ②議会改革の前史：情報公開、議会中継、対面式議場、一問一答方式等
- ③議会基本条例に刻み込む
（北海道栗山町 2006 年、市議会や都道府県議会もその後を追う）
「思いつきではない」改革
- ①地方自治の原理に由来（二元制→首長と議会の政策競争・議会の意思を示すための議員間討議、直接民主制の導入→議会にも行政にも多様な住民参加）
- ②「住民自治の根幹」としての議会（地域経営にとって重要な権限は議会（自治法 96）→「住民自治の根幹」だから→多様性、論点の明確化・合意可能性、世論形成といった役割（合議制）を担うから）

〈議会からの政策サイクルの発見：第2ステージ〉

- ①議会からの政策形成サイクルの発見（住民の声、議員間討議による調査項目の提示、調査、報告書にもとづく提言）→会津若松市議会・奥州市議会モデル
- ②議会からの政策サイクルへの転換（地域経営の本丸（総合計画・地方財政）にかかわる）→飯田市議会・会津若松市議会モデル
- ③連続性の道具：通年的議会（通任期）、追跡質問・追跡調査（質問を議会からの政策サイクルに活かす）、政策サイクルによって豊富化する審議（議会として準備）、文書質問（調査依頼）

所 感

議会基本条例や議会DXを含めた、幅広い視点での講演を聴くことができた。

特に本市の議会においては、議員間討議をもっと活発にやっていかなければならないと感じた。また、議会と首長が違う角度からまちづくり、議会が政策形成サイクルを発見し、議会からの政策サイクルへ転換、首長に対しさまざまな提言をしていかなければならないとあらためて考えることができた。

会津若松市議会、奥州市議会、飯田市議会、犬山議会など、他先進市議会の名前が挙がっていたので、機会があれば視察に行きたい。

一文責 森 和也一